

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念を書いているカードを一人ひとりが持ち、職員にとって理念を身近に感じやすい良いケアの向上を図る為に実践に取り組んでいる。	現在の場所へ移設する際に、全職員で話し合い、理念の見直しを行い、理念をいつも携帯している。利用者に統一したケアができるよう、ミーティングの中で振り返る機会を設けている。新人職員には、入社の際の研修で理念について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会長とのつながりでボランティアの方に来居していただいたり、月1回のサロン会や夏祭りに参加している。また、保育園のイベントにも参加し交流を深めている。日常的には地域への買い物や散歩を行っている。	自治会長が協力的であり、地域の保育園との交流や、近隣の企業に避難訓練の協力を依頼することもできている。劇団に来ていただいた際は、いつも参加しているサロンの方も招待し、交流を深めた。	子供達との交流の広げるべく動き始め、夏のボランティアへの登録も済ませているようです。小学校の福祉教育、中学生の職場体験など、子供たちとの交流の機会がさらに増えるよう、働きかけを続け、実現できるよう期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開かれている認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして参加し、地域の方に理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所内で行われている行事、連絡などを行い、その都度参加者の意見を聞き、質問に答えるようにしている。又、行事や日常のケアについて動画や写真を使い、ご家族にわかりやすいように説明している。	利用者家族・自治会長・地域包括支援センター職員などを招いて、年6回の運営推進会議を開催している。行事の案内、活動報告の他に参加者と意見交換を活発に行っている。参加者からは、外食の店や避難場所になった工場の紹介など、役立つ情報をいただいている。	市の担当者や、家族へ議事録を送付するなどし、内容を知っていただくことで、会議への参加を促してみてもいいでしょうか。また、近隣の事業所などへも参加を依頼し、会議をより活発にすすめられるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月末に待機者数の連絡を行っている。 年1～2回、グループホーム管理者が集まり意見交換会を行い年1回市役所社会福祉部長寿介護課の方との意見交換会も行っている。相談員の方が2ヶ月に1回、2時間程来居され、入居者の方々の生活の様子、会話をさせていただき、ケアの様子を見て頂いている。 年に一度、三者懇談会(施設、相談員、長寿介護課)に参加し意見交換を行っている。 運営推進会議に参加して頂き、議事録を地域包括支援センターに送付している。	日頃の交流とは別に、年に1回の市役所長寿介護課との意見交換会や、2か月ごとの相談員による訪問、相談員とのまとめの機会である三者懇談会も行っており、密に連携を取り合っている。また、市内のグループホームの管理者による意見交換会も行い、横の連携も深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作り、ミーティングで話し合い、帰宅願望のある方に対しては行動を把握し、一緒に散歩に行ったり、帰りたい理由などを聞くことにより、御本人の思いを受け止めケアに生かし、その方が興味を持ち集中できる事を提供することで、落ち着ける様に心がけている。 また、研修に参加をしミーティング等で職員間の話し合いを行っている。	事業所としては、身体拘束をしない方針である。必要になりそうなことが起こった場合も、何か別の対応ができないか、職員で話し合っ方法を探るようにしている。ユニット間、事務所の中、ウッドデッキなどは、自由に歩き回れるようになっている。外部研修参加後は、内容を持ち帰り、ユニット毎に職員で話し合っている。居室、トイレなどは、利用者が中から自由に施錠できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介助の方法、入居者の方への声掛けの仕方など、気になることがあれば職員間で話し合い、注意している。 研修に参加し、内容などを職員間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、その中で学び、ミーティングなどで他の職員に説明をし、話し合う機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約、重要事項説明を家族の方に時間を作って頂き、利用料金、初期加算、サービス提供体制強化加算(I)、医療連携体制加算、処遇改善加算(I)、入退居の条件、看取り、個人情報取扱いについても理解できる様に説明し、同意を得ている。長期入院時における自室のショートステイ利用についても説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価機関のアンケート集計結果を元に、結果について職員、運営推進会議で話し合い、解決している。会社より御家族の方に、苦情・相談葉書を1枚お渡しし、意見があれば投函していただくようお願いしている。苦情・相談葉書が届けば、内容を本社より連絡があり、職員に伝え話し合い、解決している。御家族の方にも解決策を説明するようにしている。	面会時などに、家族の要望などを聞くようにしている。面会に来る時間のない家族には、電話をかけて様子を伝えると共に要望などをたずねている。利用者の近況を知らせる手紙を2か月に1度、写真を添えて郵送している。苦情・相談等のハガキは直接、社長宛に届くようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、申し送り、行事等、職員が自発的に考えた意見を前向きに取り入れ運営している。職員の不満、要望などは管理者が会社に伝えて理解して頂ける様にしている。3ヶ月に1回個人面談を行っている。	管理者は、3か月に1度職員の個人面談等を行っている。職員から出た意見や提案などは、会社と相談できる体制が整っており、事業所での食事は、職員手作りのものを提供したいという意見から実現している。資格取得に必要な経費の助成、勉強会の開催、職員の頑張りを評価し昇給させる制度等、職員のモチベーションアップになる仕組みもあり、離職者ゼロがつづいている。現在の建物は、職員の意見が詰まった造りとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、意欲・質の向上に努めている。勤務が不規則な為、可能な限り希望日に休みが取れる様配慮している。資格取得の為、会社自体が勉強会、費用などをバックアップし各自の向上に努めている。年1回、等級制度を行い意欲・質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員が参加出来る様に計画を立て、研修内容については研修報告書を提出、ミーティングでの発表を行っている。参考になったことについては、取り入れて行く様にしている。また、質の向上に向けキャリアアップ形成事業などを利用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会があり、会議に参加し意見交換、情報交換などしている。研修、運動会など他のグループホームに参加させて頂き、職員同士の意見交換、交流を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、御本人、御家族に見学をして頂き、生活の様子、精神面での不安についての状況を把握している。入居後は、御本人が安心して生活出来る様に御本人の言葉、表情に耳を傾け、職員間で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、見学時などに現在の様子、入居希望理由などをお聞きすると共に契約時にも御家族の話を再度お聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に話しを伺い、介護保険施設の説明、他施設への申し込み、相談などを勧め、必要なサービスの提供をしている。場合によっては、ケアマネージャーや他の事業所のサービスに繋げるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人が家族の方への思い、昔の生活の様子、今の不安などを話しやすいような環境や話題作りを行ったり、一緒にレクリエーションや家事的な事を行う中で馴染みの関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、日々の様子、健康状態について話をしたり、手紙、写真などを御家族に送らせて頂き、生活の様子を伝えている。 又、行事などにも参加して頂けるように案内をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の希望により、ご家族の方と相談し冠婚葬祭などの行事にも参加して頂いている。 また、利用者様にとって馴染みのある場所へドライブに出かけている。	友人や親せきが面会に来ることもある。家族への電話の取次ぎ、嗜好品の買物、自宅近辺へのドライブなど、職員は、利用者の思いに応えようと支援している。家族の協力で法事へ出席されたり、お寺さんが読経をあげに来所されたりしている。仏様に供えるお茶とご飯を、必要な方には毎日用意している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解し、関りが持てるよう席の配置を考えたり、職員が間に入り、会話・レクリエーションなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい生活の場所への日常生活の様子、精神面、特に気をつけて欲しい事などの情報提供を行ったり、面接時に職員が情報提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、御本人の暮らしの希望を尋ね把握に努めている。 面会時、家族の方とも話をし、少しの間でも御本人の希望の場所へ行ける様に検討、お願いをしている。	起床や朝食時間は自由で、急な食事の希望にも応えられるよう、食材を準備している。職員は利用者の思いが叶う様に考えて支援している。意志表示が難しい場合は、今までの好みや、家族の意見を参考にしている。新聞・畑仕事・日記・調理等が生き甲斐になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャーの方から、以前の様子を尋ねたり、利用していたサービスの把握に努めている。本人の話の中で、職員が把握して出来ていない所があれば、家族に尋ね把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解し、身体的変化などの観察、会話の中から精神的な面を把握し、生活の中で声を掛けながら、手伝いなどを通して有する力引き出せる様に心がけ、記録にも残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で、本人の思いや意見を把握し、家族の方へも意見などを尋ね、職員同士でモニタリングカンファレンスを行っている。必要に応じて医師やPTの意見やアイデアを反映している。	担当職員を中心に、利用者の望みは何か情報収集し、随時話し合っている。できないことではなく、意欲的に取り組める事をなるべく取り入れている。6か月に1度モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、食事摂取量・健康状態の変化・排泄・日常の様子・精神面での様子など特に注意を払うことについては、ボールペンの色を変えて見た目にもすぐ分かるように記録をしている。申し送りでは特に大きな変わりなどを伝える様にしている。特に伝えたい記録は特記に書き、記録を見た後はサインをして職員間で情報を共有している。誰が記録を書いたか一目でわかるように最後にサインをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急を要する場合や、本人や家族の状況に応じて、通院など必要なサービスを行っている。PTIによる機能訓練のサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方によるオカリナ演奏や日本舞踊、歌などを楽しんでいただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。急に体調不良になられた時、家族の方に状況を伝え、可能であれば受診に同行していただいている。緊急時や夜間帯も指示がもらえるようかかりつけ医と連携を図っている。	基本は、在宅時のかかりつけ医を継続しているが、本人や家族の希望で協力医へ変更する方もおられる。受診は原則家族にお願いしているが、難しい場合や緊急時などは職員が対応している。歯科の無料検診があり、希望者はそのご治療を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師の採用により、日常的な体調の変化や傷の処置の仕方など相談、連絡をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の食事・排泄・ADLの状況・精神面での様子・特に気をつけていただきたい事などを情報提供している。病状にもよるが、面会に行き担当医師、看護師の方より情報をいただき早期の退院をアプローチをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を聞き、その時にどのように対応していくかを話し合うように契約の時に説明をしている。看護師を採用したことにより、重度化や終末期における対応が可能となっている。	以前、看取りを行った際は、利用者と一緒に別れを行った。利用者や家族の気持ちを一番に考え、かかりつけ医と連携を図りながら看取りが行える体制となっている。職員の精神面のケアや、「死」の受け入れ方について、さらに勉強を重ねていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に対応出来る様に、マニュアルを作り勉強を行っている。また、救命救急やAEDの使用法の講習に参加している。今年度は痰吸引研修を受講予定にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。訓練は日中だけでなく夜間など職員の少ない時も想定し行っている。同建物内の他事業所にも避難訓練の連絡・協力をお願いしている。水害の対策として2階への避難や近隣の工場への避難訓練を行っている。又、備蓄については2～3日分の食材、水を準備している。	災害発生時は、近隣の企業を避難場所として提供を受けると共に、利用者の避難に企業から応援に駆け付けてくれることになっている。12月の津波を想定した訓練にも、企業から応援に参加してもらい、実際の避難ルートを通り避難を行った。家族に避難の様子を見てもらったこともある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの思いや性格をきちんと把握しミーティングでも話し合いを行い、自己決定しやすい様その方に応じた声掛けの仕方、声の大きさ等に配慮しながら対応をしている。	食事やおやつの時間を中心に、合間をみつけて、隣に座ってゆっくり話すようにし、その場に合った接し方、声かけの仕方等に気を付けている。排泄介助の際には膝にタオルをかけるようにしている。記録簿は目にふれない場所に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに添える様に、選択肢を提案して自己決定出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で希望があれば優先的に行っており、食べたい物があればメニューを変更したりし希望に沿えるようにしている。入眠・起床時間などもその方の意思を尊重し皆と同じではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は本人の意志で決めていただき、職員が見守り、支援が必要な方については手伝う様にしている。自分で選ぶことが出来ない方については、選択肢を用意し、自分で選んでもらう様に心がけている。パーマ、カットを希望される方には出張福祉美容室が利用出来る事を伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞いたり、料理の本と一緒に見てメニューを考えたりしている。一緒に食事をしたり、食事作りや、洗い物、食器拭きなども利用者の方が積極的に行ってくれている。	国産肉と地元野菜を中心に使用し、野菜を沢山使用している。利用者は調理を手伝い、下膳や食器拭き等もしている。東西ユニットで献立が違い、代替え食材の準備もしてある。おかわりも可能である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の方の好み、食事量・水分量・栄養面を職員が把握している。体調の変化、水分量が少ない方に関しては、1日の水分摂取量を計算し記録に残している。好みの物を勧めたり、毎食後にゼリーなどを勧めて、少しでも水分が摂れる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいをして頂く様に声掛け、介助し口腔ケアを行っている。希望により、訪問歯科への口腔ケアを受けておられる方もいらっしゃる。また、希望されていない方でも年に2回訪問歯科が無料で検診を行い、口腔状態を見てくださっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、利用者の排泄パターンを把握し、排泄間隔が空いていればさりげなく声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。その方に合わせたパットを使用し、失禁が多くなればパットの見直し、トイレ誘導の間隔の見直しを行っている。	出来るだけトイレで排泄してもらるように支援しており、介護度の高い人も日中は職員2人対応で、トイレ介助をしている。排泄チェック表を利用したトイレ誘導、パットの見直し等を進めた結果、紙パンツを止めて、布パンツのみや、パッドと布パンツの使用だけで過ごせる利用者が増えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、排便の確認、便秘の方には牛乳、スポーツドリンク、寒天などで水分補給を行っている。献立にも、野菜を多く取り入れるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は、だいたい決まっているが、本人の希望を尋ね意思に添うようにしている。ユニットバスで入浴が難しい方は特浴を使用し、御本人に負担がかからないようにしている。	午後からが入浴時間になっている。入浴日や時間は大まかに決まっているが今日は嫌とか、毎日入浴したいなどの個々の希望には柔軟に答えている。考えられた場所と高さに手すりがある。機械式浴槽が使用できるので、全員が湯船に浸かることが出来ている。入浴剤の使用や、ゆず湯など行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、本人の意志に添った活動(体操・ぬり絵・パズル・家事の手伝い)をして頂き、生活のリズムを整える様努めている。夕方からは、出来るだけ穏やかに過ごしていただき、入眠しやすい環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方箋をファイルし、職員が内容を把握出来る様にしている。薬のセットは、一週間分ピルケースに2人でセットし、間違いのないようにし、服用時には、職員が声を掛けながら本人に手渡し、服用確認をしている。薬の変更などがあれば、状態を記録し、体調に変化があれば主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意なこと、興味を持たれていることを探し参加して頂き、力が発揮出来る場面作りをしている。仕事に参加していただいた時には、感謝の言葉を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態に合わせ、本人の希望する買い物に行ったり、御家族に協力して頂き、希望する場所に出かけていただく等している。 天気の良い日には、近所に散歩に出かけている。	利用者と一緒に毎日の買い出しをしている。少人数での回転寿司ランチ、車イスの人のとの買物等は喜ばれている。家族を誘っての花見・紅葉狩り・貸し切りランチなど、外出の機会を作っている。家族と外食に出掛ける利用者もいる。気候の良い頃は、裏の花を見に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、御家族の方と相談しながら行っており、御本人が希望されれば小額を持っていただいている。職員と買い物に行き、自分で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の方と相談しながら、電話や手紙のやりとりをしている。年賀状を出していただいている。御本人が文字を書くことが出来ない場合は、職員が代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と一緒に季節ごとの壁画を作り季節感を出すようにしている。居間には季節を感じられる飾りや花などを飾ったり、観葉植物を置いて温かみのある空間にしている。ウッドデッキには花や野菜を植えている。	利用者と職員と一緒に作成した季節の壁画は、目を引く出来映えである。共用部分は広く、アイランドキッチンがあり、造りに統一感がある。休憩用ソファが陽当りのよい場所に置いてあり、思い思いの場所で過ごせる配慮がされている。	利用者と職員は毎月、壁面飾りを作成しているが、月が替われば処分してもらってはどうか。「はるや」のことを地域の人達に、もっと知ってもらう機会になるよう期待しています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子・ベンチなどを色々な場所に置くことにより、利用者の方が思い思いに過せる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前から使っていた馴染みのある物を持って来ていただける様にしている。家具・ベッドの配置も、御本人が使い易く落ち着ける様に部屋作りをして頂いている。	なじみの物や家具、仏壇、テレビ、写真などを持参され、好きなように配置したり、飾ったり、貼ったりと、その人らしい居室になっている。写真立て、洋服掛けと、好きな用途で使える棚がある。室内からの施錠も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態の変化を把握して、変化に合わせた環境整備を行う様、職員同士話し合い、本人の不安を取り除き、安心して生活して頂ける様に工夫している。		